

特集
ヘルニアって
治るといいものです
 外科 高井 昭洋

外科が扱うヘルニアは、主に鼠径ヘルニアです。そのほかにも、腹壁癒痕ヘルニア、食道裂孔ヘルニア、傍ストーマヘルニア、臍ヘルニアなどがあげられます。当院では、カラダに優しいとされる腹腔鏡を用いたヘルニア修復術に積極的に取り組んでいます。腹腔鏡ヘルニア手術の最大のメリットは、ヘルニア門を確実に視認できることと大きなメッシュを留置できる点です。今回は、鼠径ヘルニア、腹壁癒痕ヘルニア、食道裂孔ヘルニア修復術の症例をご紹介します。

1 鼠径ヘルニア症例

症 例：47歳男性
主 訴：左そけい部膨隆
現病歴・現症：立位での力仕事をしている。立ったときに左鼠径部の膨隆が出現してきたため来院した。手術前日に入院。
手 術：腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術(Transabdominal preperitoneal repair: TAPP)
術 後 経 過：手術翌日から食事を開始。術後経過良好で、術後4日目に退院した。

2 腹壁癒痕ヘルニア症例

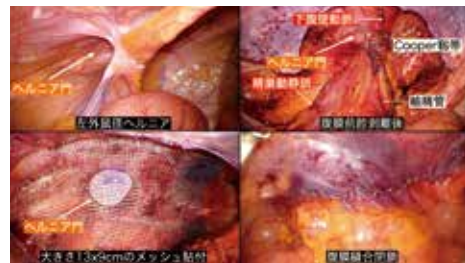
症 例：79歳男性
主 訴：腹部膨満感
現病歴・現症：1年6ヶ月前に前立腺癌に対しロボット支援手術を受けた。3ヶ月前の精査にて、腹壁癒痕ヘルニアを指摘されたが、特に自覚症状がなかったために経過観察をしていた。今回、腹部膨満感が強くなってきたため、手術を希望して、外科紹介となった。
手 術：腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア修復術 (Intraperitoneal onlay mesh repair plus: IPOM+)
術 後 経 過：手術翌日から食事を開始。術後経過良好であり、術後4日目に元気に退院した。退院後の外来受診で、術前の膨満感は消失し、痛みもなく、元気に歩いていると話された。

3 食道裂孔ヘルニア症例

症 例：88歳女性
主 訴：黒色物嘔吐
現病歴・現症：整形外科にて、大腿骨頸部骨折術後、入院中であつた。嘔吐が出現するようになり、上部内視鏡検査および胸腹部CT検査を施行したところ、縦隔内に全胃および横行結腸が脱出する食道裂孔ヘルニアの嵌頓と診断された。保存的治療は困難であったため手術の方針となった。
手 術：腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア修復術 (Nissen法)
術 後 経 過：第5病日から食事を開始。食欲は旺盛であり、術後10日目には、軟飯・軟菜を全量摂取で

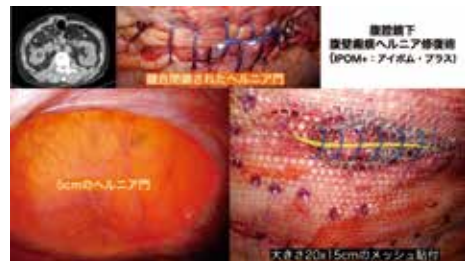
きるようになった。術後CTにて、全胃は腹腔内にあり、再脱出は認めていない。ご飯が美味しいと回診の度に笑顔で話される。

鼠径ヘルニアや腹壁癒痕ヘルニアの場合、患者さんは、鼠径部や手術痕が膨れているのは知っているけれども、仰向けになると引っ込むし、たまに痛みはあるけど、ずっとではないし・・・と放置されていることも多いようです。良性疾患ですが、根本的治療は手術しかありません。有症状の場合、ヘルニア門が小さい(2~3cm大)場合、女性の場合などは、手術が推奨されます。手術後の患者さんからは、こんなによくなるんだったら早くしておけばよかったとの声も聞かれます。この治療は日々の些細な気がかりをなくし、生活の質の向上に大きく貢献できる治療と考えています。ヘルニアって治るといいものです。気になるようでしたら、ぜひ一度お気軽にご相談下さい。



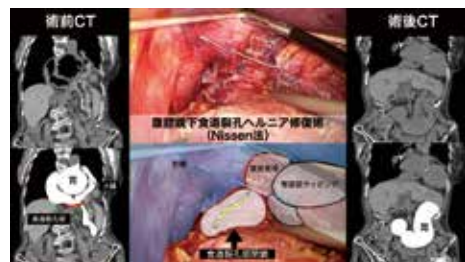
例1 腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術 (Transabdominal preperitoneal repair: TAPP)

鼠径ヘルニアの場合、腹腔内から観察すると、ヘルニア門の大きさや位置を確実に診断できる。両側にあった場合でも同時に治療が可能である。



症例2 腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア修復術 (IPOM+ : アイボム・プラス)

腹壁癒痕ヘルニアの場合、ヘルニア門が大きい(5cm以上)と手術が難しくなる。腹腔内からメッシュをあてること(IPOM)に加え、ヘルニア門を縫合閉鎖する(IPOM+)ことで、より正常腹壁に復させることができる。



症例3 腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア修復術 (Nissen法)

食道裂孔ヘルニアは、強い逆流性食道炎を呈することもあれば、無症状の場合もある。本症例のようなケースはまれであるが、手術が非常に有効であった。